

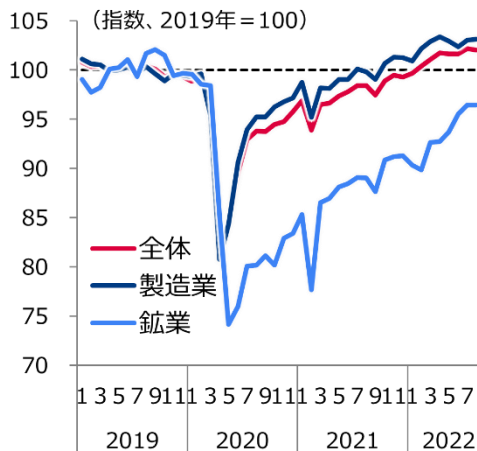
米国

鉱工業生産指数（2022年8月）

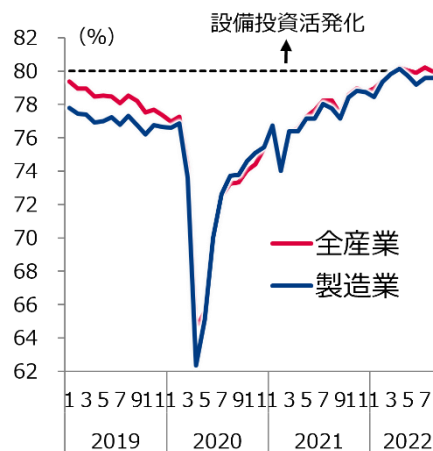
供給制約緩和を背景に製造業活動は底堅さを維持も、増勢は鈍化

政策・経済センター  
浅井優汰  
03-6858-2717

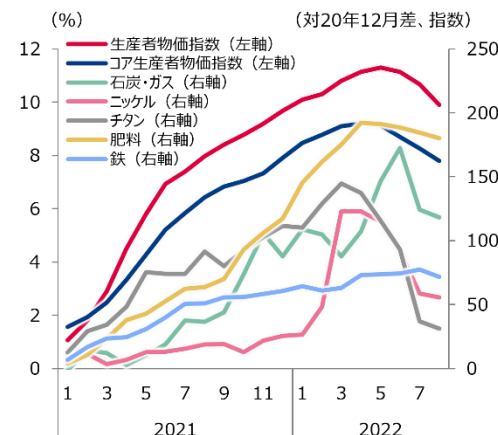
## 1 鉱工業生産指数

注：直近は22年8月。破線は19年平均。  
出所：FRBより三菱総合研究所作成

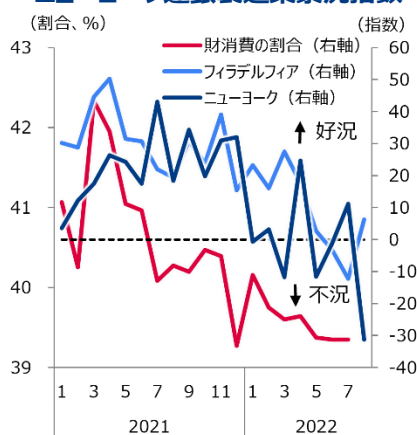
## 2 設備稼働率

注：直近は22年8月。破線は設備投資の活性化が期待される水準である80%。  
出所：FRBより三菱総合研究所作成

## 3 生産者物価指数・輸入物価指数

注：生産者物価指数は前年同月比の3か月移動平均。  
輸入物価指数は20年12月=100。直近は22年8月。  
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

## 4 財消費の割合・フィラデルフィア/ニューヨーク連銀製造業景況指数

注：破線は、景況指数における好不況の分かれ目であるゼロ。  
財消費の割合は財消費/実質消費支出で、直近は22年7月。  
出所：米国商務省、フィラデルフィア連銀、ニューヨーク連銀より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 22年8月の鉱工業生産指数は、前月比▲0.2%（7月同+0.5%）と低下した。電力などの公益事業が同▲2.3%と大幅に低下し、全体を押し下げた。そのほか、製造業は同+0.1%（7月同+0.6%）と伸びは鈍化した。5カ月連続で上昇していた鉱業は同+0.0%（7月同+1.0%）と横ばいだった（図表1）。
- 内訳をみると、石油・石炭関連（同+3.5%）、コンピュータ・電子製品（同+1.3%）や機械（同+1.0%）などが堅調に推移した一方、7月同+3.2%と上昇していた自動車・部品（同▲1.4%）は減少に転じた。
- また、8月の設備稼働率は全産業が前月比▲0.2%の80.0%、製造業が前月から横ばいの79.6%といずれも19年平均を上回る高水準となった（図表2）。

## 基調判断と今後の流れ

- 大幅な利上げ継続による景気後退懸念があるなか、製造業の生産活動は増勢が鈍化しているものの、拡大を続けている。設備稼働率は依然としてコロナ危機前の19年平均を上回る水準であり、製造業活動の底堅さが示された。
- 底堅さの背景には、生産活動の重しである、①原材料の供給制約、②エネルギー価格高騰、の改善がある。生産者物価指数（前年同月比の3か月移動平均）は総合、コア指数ともに5月をピークに低下が続いている（図表3）。加えて、ニッケルや肥料など、ロシアへの依存度が高い素原材料の輸入物価指数はピーク時から約3割低下しており、生産活動の重しの緩和が見込まれる。
- 先行きについて、製造業活動の増勢は引き続き鈍化すると見通す。供給制約の緩和による収益の改善が活動の下支えとなるものの、①FRBの大幅な利上げ継続、②財からサービスへの消費の揺り戻し、の2つが押下げ要因となるからだ。
- 実際、実質消費支出に占める財消費の割合、絶対額ともに低下が続いている（図表4）。また、製造業活動に先行するフィラデルフィア・ニューヨーク連銀製造業指数は、22年入り後に好不況の分かれ目のゼロを下回る月が増えている。